

環境に優しい企業活動を目指して

2003 松浦発電所 環境アクションレポート



松浦水軍祭り

CONTENTS

| | |
|----------------------------------|-----|
| ごあいさつ | 1 |
| Ⅰ 環境マネジメント体制 | 2 |
| Ⅱ 2002年度の活動実績 | 3 |
| (1) 目標と実績 | 3 |
| (2) 取り組み状況 | 4 |
| 1.環境マネジメントの効果的な運用 | 4 |
| 2.地球環境問題への取り組み | 5 |
| 3.廃棄物リサイクルの推進(ゼロエミッションの挑戦) | 5 |
| 4.地域環境との共生 | 7 |
| 5.社会との協調 | 7 |
| 6.働きやすい職場づくり | 8 |
| 7.所員の意識高揚対策 | 8 |
| Ⅲ 松浦発電所の概要(2003年3月31日現在) | 9 |
| (1) 設備概要 | 9 |
| (2) 松浦発電所のあゆみ | 裏表紙 |
| Ⅳ 展示施設の問い合わせ先 | 裏表紙 |



松浦発電所がある長崎県松浦市は、長崎県の北端に位置し、穏やかな伊万里湾と緑の山々に囲まれ、風光明媚で豊かな自然を有しています。かつては「末羅国(まつらこく)」と呼ばれ、古くから朝鮮半島や中国大陸との交流が行われており、源久(みなもとのひさし)を始祖とする水軍・松浦党の発祥の地として広く知られています。

表紙の「松浦水軍まつり」は、この松浦党が活躍した頃の船を再現した「山車」を使ったパレードや武者行列、市民総踊り、御厨蛇踊りなどが催される松浦市最大のイベントで、毎年10月に開催されています。

ごあいさつ

松浦発電所は、エネルギーセキュリティーの確保、地球環境問題への対応、経済性等を総合的に勘案して電源開発を進める「電源のベストミックス」の一翼を担うべく建設された海外炭専焼の700MW石炭火力発電所で、1989年6月に営業運転を開始しました。

このため、環境対策面では、当時の最新鋭の環境対策技術・設備を取り入れるとともに、周辺環境との景観調和を図るなど万全を期しています。1989年には、「環境保護に対して世界レベルで指導的役割を果たした」として米国の出版社マグローヒル社から「国際環境保護賞」を受賞しました。

営業運転開始以降は、所員一同、環境保全に配慮しながら、日々の安全運転に努めるとともに、この14年の間の環境問題に関わる状況変化に対応して、環境管理面での体制強化や、地球温暖化やオゾン層の破壊、身近なゴミ問題等の環境問題への様々な対策の実施など、環境保全活動の充実・改善を図っております。

具体的には、「地域とスクラムを組み、真に豊かな社会とは何かを考え、行動する」という企業理念のもと、「九州における持続可能な社会づくり」に向け、

- 環境活動を自主・継続的に改善していく環境マネジメントシステムISO14001の認証継続（1997年7月 国内電力業界初取得）
- 石炭灰の有効利用率向上をはじめとする「ゼロエミッション」への取り組み
- 熱効率の向上や所内電力の削減などの省エネルギーへの取り組み

などに努めております。

さらに、今年度からは地域の皆さま方との環境コミュニケーションを充実させたいとの思いから、皆さま方に私たちの環境活動をより一層知って頂くために、この「松浦発電所環境アクションレポート」を発行しました。皆さまからの率直なご意見、ご感想をお待ちいたしております。

私たちは、今後とも地域の皆さま方のご協力を得ながら、環境保全をはじめとする事業活動を展開していく所存です。

2003年9月
松浦発電所長

田口義博



松浦発電所は、環境活動の心構えや方向性を示した「九州電力環境憲章」、全社の環境活動計画を取りまとめた「九州電力環境アクションプラン」に基づき、地域の皆さまとともに積極的な環境活動を推進しています。

1 環境マネジメント体制

松浦発電所は、環境活動の計画・実行・管理・評価・改善を行うPDCAを回しながら、自主的・継続的に環境活動を改善していく環境マネジメントシステム(EMS)の構築に取り組み、1997年7月に、その国際規格であるISO14001の認証を国内の電力業界で初めて取得しました。

(1) 環境方針

「九州電力環境アクションプラン」や松浦発電所の事業形態、適用される環境関連法規制、地元自治体との環境保全協定等を踏まえて、環境保全に対する理念、及び取り組みの基本スタンスを定めた「環境方針」を策定しています。

(2) 推進体制

発電所長が選任した、EMSの維持管理に関する総括責任者である「環境管理責任者」のもと、「環境管理委員会」にて環境方針や環境目的・目標等に関する諸事項を審議しています。

(3) 目的・目標の設定

環境方針に基づき環境保全活動を行うため、松浦発電所の事業活動に伴い、周辺の環境に著しい影響を与える項目を抽出し、これらを改善するための目的・目標を策定し、この達成に向けた取り組みを全所員一丸となって進めています。

(4) 内部環境監査

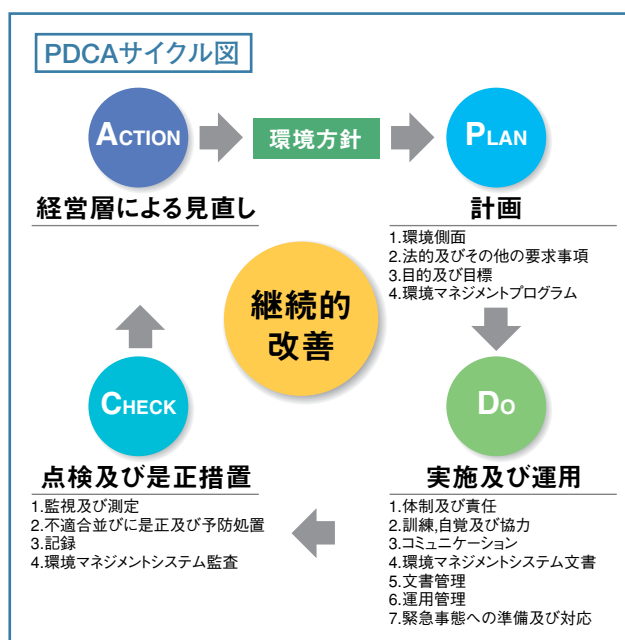
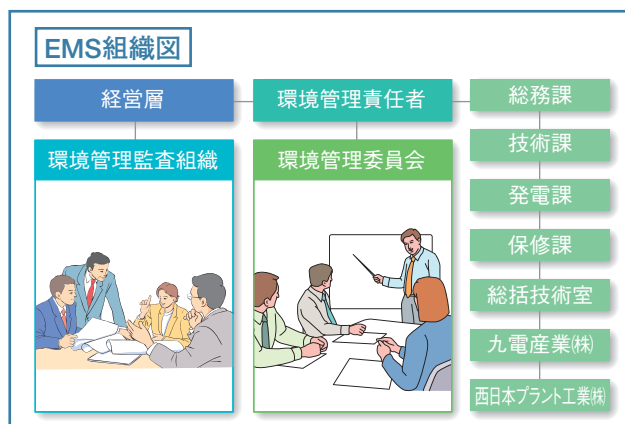
発電所長が選任した「監査総括責任者」を中心とした「環境管理監査組織」が、環境監査を年2回実施しています。ここでは、松浦発電所における環境管理がISO14001規格の要求事項に適合し、適切に運用・維持されているかを確認しています。

環境方針

環境に優しい企業活動を目指して

1. 発電所の環境保全に関わる法令及び関係自治体との協定を遵守し、環境に与える影響の低減に努めます。
2. 発電設備の高効率運転の維持及び省資源、省エネルギーに努めます。
3. 廃棄物の適正な処理とリサイクル化に努めます。
4. 事業活動に伴う環境影響を全所員に認識させ、経済的・技術的に可能な範囲で継続的な改善に努めます。
5. 本方針は全所員に周知し、教育・訓練等による意識の高揚を図り、環境事故の未然防止に努めます。

平成9年6月13日
松浦発電所長



(5) 外部環境監査

ISO14001の有効期限は3年であるため、認証取得から3年後の2000年度及び2003年度に、外部審査機関による更新審査を受審しました。それ以外の年も、外部審査機関による定期審査を受審し、EMSが確実に機能していることの確認を受けています。

■外部環境監査の受審状況

| | 1997年度 | 1998年度 | 1999年度 | 2000年度 | 2001年度 | 2002年度 | 2003年度 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 認証取得 | ◎ | | | | | | |
| 更新審査 | | | | ◎ | | | ◎ |
| 定期審査 | | ◎ | ◎ | | ◎ | ◎ | |

(6) 教育・訓練の実施

各所員のニーズに応じたEMSに関する教育や、アンモニア漏洩事故処置訓練、消防操法訓練等の緊急事態対応教育・訓練を定期的に行っています。

担当者から一言

技術課(現:環境部)
増田 繁



松浦発電所は石炭を燃料としているため、石炭灰が大量に発生します。そこで、従来から取り組んでいる石炭灰の有効利用方策の検討にEMSの手法を取り入れ運用管理を行った結果、2000年度は86.8%であった有効利用率が、2002年度は99.5%まで向上しました。これは、関連会社も含めた全所員が一丸となり、紆余曲折しながらも自ら定めた目標に向かって取り組んだ結果であると思います。また他にも発電所事務所で不要照明の消灯等の省エネルギー活動など、継続的に環境への影響を低減する努力を行っており、今後もEMSを活用しながら、更に環境に優しい発電所を目指していきたいと思っています。

Ⅱ 2002年度の活動実績

主要な環境活動について目標値を定め環境負荷の低減等に努めています。

(1) 目標と実績

| 活動項目 | 単位 | 目標 | 2002年度実績 | 評価 | | |
|------------------|---------------------|-----------|-------------|---|------|---|
| EMSの 効果的運用 | ISO14001定期審査への的確な対応 | 不適合項目数(個) | ゼロ | ゼロ | ○ | |
| | 活動充実化のための方策検討・実施 | — | 全所員へのEMSの浸透 | ●EMSハンドブックを作成し全所員に配布 ●転入者へのEMS関連教育の実施等 | ○ | |
| | 所外とのコミュニケーションの推進 | — | 問い合わせへの随時対応 | 適正に対応 | ○ | |
| 地球環境問題への 取り組み | 発電所熱効率(送電端)の維持 | % | 前年度維持 | 37.2 | ○ | |
| | 所内動力の削減 | % | 前年比0.5%削減 | 0.87%削減 | ○ | |
| 廃棄物 リサイクルの推進 | 石炭灰リサイクル率 | % | 98.0 | 99.5 | ○ | |
| | 石炭灰以外リサイクル率 | % | 98.3 | 99.3 | ○ | |
| | 古紙リサイクル率 | % | 100 | 100 | ○ | |
| 地域環境との共生 | SOx排出*(協定値) | 量 | miN/h | 221以下 | 89.5 | ○ |
| | | 濃度 | ppm | 100.0以下 | 41.8 | ○ |
| | NOx排出*(協定値) | 量 | miN/h | 139.0以下 | 83.4 | ○ |
| | | 濃度 | ppm | 60以下 | 38.2 | ○ |
| ばいじん濃度*(協定値) | mg/miN | 40以下 | 2.4 | ○ | | |
| 社会との協調 | 清掃活動等の地域行事への積極的な参加 | 参加者数(人) | 85 | 60 | × | |
| | 発電所見学者の受け入れ | 見学者数(人) | 626 | 904 | ○ | |
| | 発電所施設(緑の広場等)の開放 | 利用者数(人) | 1,144 | 381 | × | |
| | 原子力発電所見学会の開催 | 参加者数(人) | 300 | 509 | ○ | |

※:発電所運転時(定期修繕工事期間を除く)に月1回測定。2002年度は、10回測定を実施しており、実績値はその平均値。

(2) 取り組み状況

1 環境マネジメントシステムの効果的な運用

定期審査への対応

松浦発電所は、2002年5月28、29日に、外部審査機関によるISO14001の規格適合状況に関する定期審査を受審しました。この審査では、2件の指摘(改善が

望ましい項目)を受けましたが、不適合項目はありませんでした。

定期審査での指摘事項等

| | 内 容 | 対応状況 |
|---------|---|--------------------------|
| 指 摘 事 項 | 2002年度の教育計画において、目的・目標の教育が6月実施となっている部署があるが、もっと早期に実施すべき | 手順書の見直し済み (毎年5月までに実施) |
| | 監査チェックリストに前回の監査結果等が記載されていない | 記録様式の見直し済み |
| 不適合項目 | なし | |

活動充実化に向けた取り組み

所員の取り組み意識の高揚等の活動充実化に向けた取り組みを進めています。

2002年度は、EMSの全所員への浸透策としてEMSハンドブックを作成し、全所員に配布しました。文書、記録類等の取り扱いにおいて記載項目の記入もれなどの不備が見受けられたため、今後は所員教育の充実を図っていくことにしています。



EMSハンドブック

所外コミュニケーションの推進

松浦発電所は、事業活動に対するご理解を頂くため、周辺の皆さまとのコミュニケーションを推進しています。2002年度は、社外からの数件の問い合わせに対し、適切に対応しました。

社外からの主な問い合わせへの対応状況

| 発生日 | 件 名 | 内 容 | 対応状況 |
|------------|--|--|--|
| 2002年7月18日 | 炭じん飛散に関する問い合わせ | 雨樋水を家畜の飲み水としているが、その水が最近黒い。炭じんの影響ではないか。 | ●採取した雨樋水の分析を実施 (影響がないことを確認) ●苦情元、松浦市へ調査結果を報告 |
| 2002年9月 5日 | ボイラー安全弁動作に関する問い合わせ(所内変圧器用地絡保護リレー誤動作によるユニット自動停止時) | 大きな音及び煙(蒸気)が発生したが、何故か。区長へ報告してもらいたい。 | 白浜地区区長をはじめ、 消防、警察へ経緯を説明 |
| 2003年3月27日 | 炭じん飛散に関する問い合わせ | 雨の後、車に黒いほこりが付着している。発電所から飛散してきたものではないか。 | サンプルを回収できなかったため、再度調査予定(以後問い合わせなし) |

2 地球環境問題への取り組み

電源ベストミックスへの取り組み

CO₂排出量は、石炭火力発電、原子力発電、風力発電、LNGガス発電、などの発電方式により大きく異なっています。

九州電力では、電力供給の安定性、経済性及び地球環境問題への対応等を総合勘案し、原子力を中核としてバランスのとれた電源開発の推進による電源ベストミックスの達成や、新エネルギーの開発・導入への取り組みなどを通して、CO₂排出量の削減に努めています。

発電所熱効率向上への取り組み

地球環境問題への取り組みとして、発電用燃料の削減によりCO₂、SO_x、NO_xなどの排出抑制につながる発電所熱効率の向上に努めています。

所内動力削減に向けた取り組み

所内動力（発電所内の各機器の使用電力）削減による省エネルギー等に取り組んでいます。2002年度は、ボイラ排ガス低O₂運用等により、前年度比で0.87%の所内動力を削減しました。

3 廃棄物リサイクルの推進 (ゼロエミッションへの挑戦)

循環型社会の形成に向けて、廃棄物の最終処分量を限りなくゼロに近づける「ゼロエミッション」に挑戦しています。産業廃棄物、一般廃棄物については、発生抑制 (Reduce: リデュース)、再使用 (Reuse: リユース)、再利用 (Recycle: リサイクル) の3Rを実践しています。

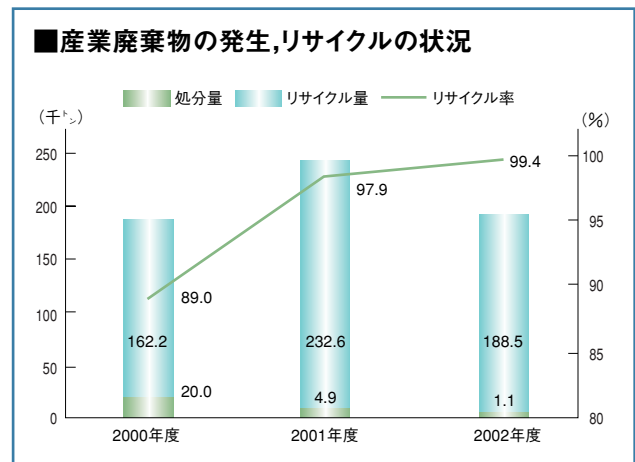
所員の意識高揚

松浦発電所一丸となってゼロエミッションに取り組むため、

- ゼロエミッションへの取り組みを分かりやすく解説した「環境ハンドブック」の全所員への配布 (2002年3月)
- ゼロエミッションポスターの作成・掲示
- 社内公募した推進標語のゼロエミッション推進ポスターへの掲載 (1,212件の応募標語の中から社員2,406人参加の電子投票で選定) などによる所員の意識高揚を図っています。

産業廃棄物

松浦発電所の2002年度産業廃棄物の発生量は、約19万トンで、そのリサイクル率は、2000年度の89.0%からは99.4%に上昇しました。これは、主に新規取引先の拡大などにより石炭灰のリサイクル率が向上 (86.8%→99.5%) したためです。

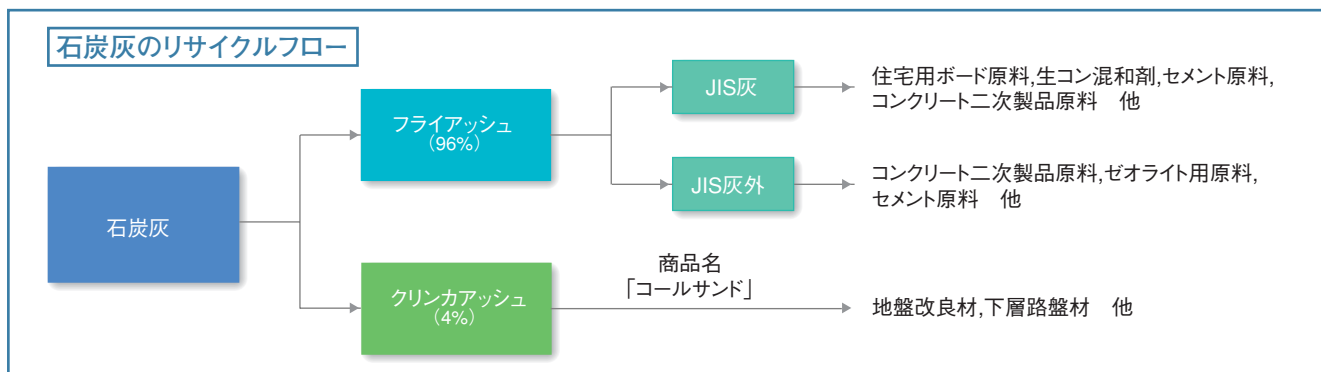


リデュースへの取り組み

機器の点検周期延長による取替え部品(シール・軸受け・ガスケットなど)の削減や機器潤滑油の再利用(2002年抑制量:15,300ℓ)、蛍光管の定期取替えから都度取替えへの変更等により、産業廃棄物の発生抑制に努めています。

リユースへの取り組み

電力用資機材については、リユースの可否を適正に判断し、再利用可能なものや修理して使えるものはリユースしています。



リサイクルへの取り組み

2002年度の産業廃棄物のリサイクル率は、2001年度から1.5ポイント上昇し、99.4%となりました。

発生量の81%を占める石炭灰のリサイクル率は、分級サイロ等での除湿対策や出荷灰の性状管理の強化、新規取引先の拡大などの取り組みにより、2001年度より1.9ポイント上昇し99.5%となりました。

石炭灰以外のリサイクル率は、2001年度(99.1%)と同程度の99.3%でした。

また、発電所内で発生した使用済蛍光管は、グループ会社である「(株)ジェイ・リライツ」にてリサイクルしています。ここでは、回収した使用済蛍光管を分別・破碎した後、ガラス、金属、蛍光体等に分け再資源化するとともに、リサイクル蛍光管の原料として利用しています。

【連絡先】

(株)ジェイ・リライツ
〒808-0021 北九州市若松区響町1丁目62番17号
電話 093-752-2386

一般廃棄物

松浦発電所で発生する一般廃棄物には、古紙、ビン、缶、ペットボトルなどがあります。

担当者から一言

技術課

鶴山 成久

松浦発電所では、石炭灰の有効利用の一環として、人工ゼオライトを製造販売することとしています。この人工ゼオライトは、多孔質性の物質で、イオン交換能力・吸収能力・触媒効力等に優れた特性を有しているため、屋上緑化資材や水質浄化剤、吸着剤・脱臭剤、土壌改良材など農業・環境・土木分野など多方面での利用が期待されています。

松浦発電所では、グループ会社の九電産業と共同で、2004年5月頃から製造・販売を開始する予定にしています。

【連絡先】

九電産業(株)
〒810-0004 福岡市中央区渡辺通二丁目1番82号
電気ビル別館 電話092-781-3061



人工ゼオライトの拡大写真

破碎後に回収された原料



ガラス



蛍光体



金属

リデュースへの取り組み

古紙については、両面コピーの実施、ミスコピーの防止、パソコンを活用した文書回覧などによる発生抑制に取り組んでいます。

また、乾電池の使用量削減にも取り組んでおり、2002年度は、充電式タイプの使用により対年比で90.9%を削減しました。

リユースへの取り組み

古紙の裏面利用や、ファイル等の事務用品のリユースに努めています。

リサイクルへの取り組み

機密文書の回収リサイクルを開始するなど、2002年度4月からリサイクル率100%に向けた取り組みを始めました。

2002年度は、所内で9.8トンの古紙が発生しましたが、すべてを回収・リサイクルに回しました。

機密文書は、グループ会社である「九州環境マネジメント(株)」にてリサイクルしています。ここでは、機密文書を、回収(保管を含む)～機密抹消～溶解処理し、万全のセキュリティのもとでリサイクルしています。

【連絡先】

九州環境マネジメント(株)
〒810-0022 福岡市中央区薬院1丁目13番8号
電話 092-725-5208

その他の取り組み

事務用文房具、OA機器消耗品等の購入においては、環境に配慮した製品を購入する「グリーン調達」を推進しています。

5 社会との協調

所員の地域行事への参加や周辺の皆さまへの発電所施設の開放など、社会との協調に努めています。

地域行事への積極的な参加

松浦発電所は、地元のお祭りや清掃活動などの地域行事へ積極的に参加しています。

4 地域環境との共生

設備運用における環境の保全と管理の徹底など、地域環境の保全に積極的に努めています。

大気汚染対策

発電所から排出するばい煙(SOx, NOx, ばいじん)に対して、様々な対策を行っており、その排出実績は、環境保全協定値を大きく下回っています。

■松浦発電所での大気汚染対策

| | 内 容 |
|----------|--|
| SOx削減対策 | 排ガス中からSOxを除去する排煙脱硫装置の設置 |
| NOx削減対策 | ボイラー等の燃焼方式の改善 「二段燃焼方式の採用」, 「排ガス混合燃焼方式の採用」, 「低NOxバーナーの採用」, 排ガス中からNOxを除去する排煙脱硝装置の設置 |
| ばいじん削減対策 | 排ガス中からばいじんを除去する高性能電気集じん器の設置 |

水質保全対策

機器及び構内からの排水を排水処理装置で処理し、環境保全協定値以下であることを確認のうえ、放水しています。

騒音・振動防止対策

低騒音・低振動型設備の採用や消音器・防音壁の設置、機器の屋内への設置などの対策を行っており、定期的な測定により、環境保全協定値以下であることを確認しています。

2002年度は、松浦水軍祭りに29名、志佐川清掃に7名、志佐くんちに4名など、延べ60名が地域行事に参加しました。目標の85名以上の参加を達成することはできませんでしたが、今後は目標達成に向けて更に積極的な取り組みを行っていく予定です。

発電所見学者の受け入れ

周辺の皆さまにご理解を頂くために、発電所見学会を開催しています。

2002年度は発電所見学会に、学生や婦人会、老人会、海外からのお客さまなど904名の皆さまへの参加を頂きました。

発電所施設（緑の広場等）の開放

緑の広場の開放やグラウンド、テニスコートを開放し、地域の皆さまに活用して頂いています。

2002年度は、テロ対策や定期修繕工事期間での貸し出し制限により、目標を大きく下回りましたが、今後も発電所施設等の提供・開放を積極的に進めていきます。

原子力発電所見学会の開催

地球温暖化の防止にも有効な原子力発電所の開発・利用をご理解いただくため、玄海原子力発電所の見学会を開催しています。

2002年度は、発電所周辺の小中学生を中心に、509名の方の参加を頂きました。



ぎぎが浜海水浴場の清掃風景（2002年6月14日実施）



松浦発電所のPR展示室



緑の広場

6 働きやすい職場づくり

松浦発電所は、電気事業を取り巻く経営環境が大きく変化する中で、更なる発展を遂げるためには、所員が働き甲斐を感じ、安心して働ける職場づくりが必要であると考えています。

松浦発電所では、災害ゼロの職場づくりに努めてきた結果、1989年7月1日以降、無災害を続けています。

7 所員の意識高揚対策

環境活動に関する研修や情報提供を充実させ、所員一人ひとりの環境意識の高揚を図っています。

環境関連の専門家育成

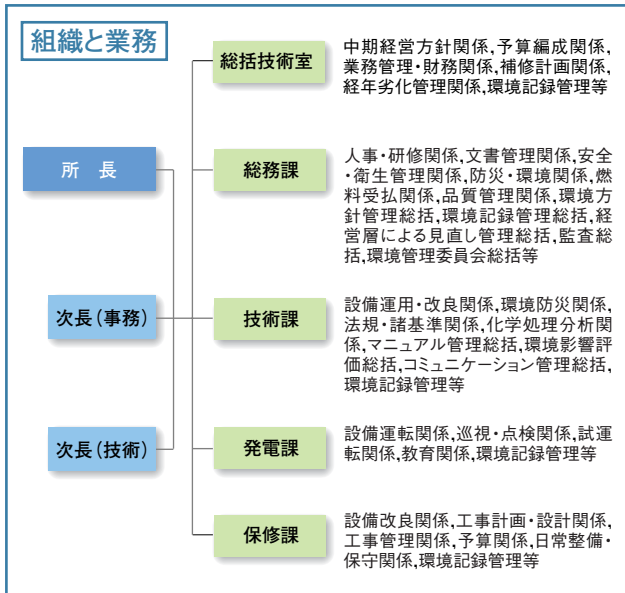
九州電力では、通信教育受講料の補助や公的資格祝金などの諸制度を設けており、公害防止管理者、エネルギー管理士などの所員の環境関連の資格取得を支援しています。

■松浦発電所での環境関連の資格取得の状況

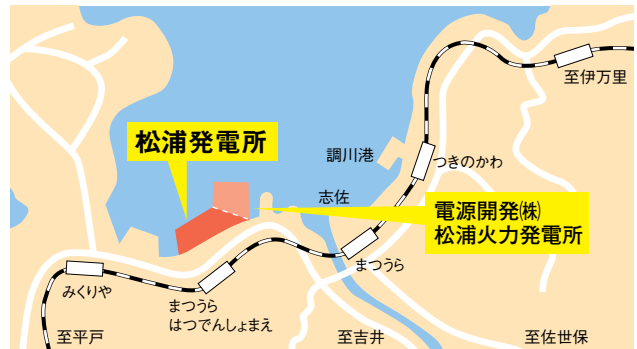
| | 2002年度 取得者数 | 2002年度末の 有資格者数 |
|------------------|----------------|-------------------|
| エネルギー管理者 | 1 | 18 |
| 公害防止管理者 | 0 | 16 |
| 産業廃棄物中間処理施設技術管理者 | 2 | 11 |
| 産業廃棄物最終処分場技術管理者 | 0 | 6 |
| 高圧ガス製造責任者 | 3 | 60 |
| ボイラー技士 | 2 | 64 |
| 内部環境監査員 | 3 | 10 |

III 松浦発電所の概要 (2003年3月31日現在)

- 営業運転開始日: 1989年6月30日
- 所在地: 長崎県松浦市志佐町白浜免字開発2091番地1
- 従業員数: 87名



松浦発電所の全景 [電源開発株との共同立地(揚運炭設備、緑地等を共有)]



松浦発電所の位置

(1) 設備概要

松浦発電所は、九州電力で初の海外炭専焼の火力発電所で、世界中の石炭を焚けるように設計されて

います。2003年6月21日に、累積運転時間10万時間(初並列以降)を達成しました。

| | | 仕様他 |
|----------------------|--------|--|
| 出力 | | 70万kW |
| ボイラー (三菱重工) | 形式 | 超臨界圧変圧運転貫流型 |
| | 蒸発量 | 2,300t/h |
| | 燃料 | 石炭(豪州、米国他 海外炭) 使用量 約160万t/年 |
| タービン (日立製作所) | 形式 | 串型衝動4流排気再熱復水型 |
| | 蒸気圧力 | 24.1MPa |
| | 蒸気温度 | 538℃/566℃ |
| 発電機 (日立製作所) | 形式 | 横置円筒回転界磁型同期発電機 |
| | 電圧/周波数 | 25kV/60Hz |
| 環境保全 | 協定 | 長崎県、松浦市と「環境保全協定」を締結(締結年月日:1982年12月24日) ※:1993年2月と2001年2月に一部改定 佐賀県、伊万里市と「環境保全協定」を締結(締結年月日:1983年3月14日) ※:1993年3月と2001年3月に一部改定 |
| | 設備 | 排煙脱硝装置、電気集じん器 排煙脱硫装置、排水処理設備 他 |
| 発電所用地(当社・電源開発(株)の共有) | | 149万㎡(内 灰捨場 44万㎡) |
| 緑化率 | | 25%以上 |
| 建設工事費 | | 約1,900億円(内 環境対策費 約500億円) |

(2) 松浦発電所のあゆみ

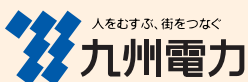
| 年月日 | 主な行事 |
|-------------------|--|
| 1977年 9月27日 | 長崎県,松浦市へ環境影響調査を申し入れ |
| 1979年 2月~1980年 3月 | 環境影響調査を実施 |
| 1981年 3月26日 | 1号機が新たな発電所の建設計画を決定する政府の「電源開発調整審議会」を通過 |
| 1984年11月 1日 | 1号機の建設所を設置 |
| 1985年 2月28日 | 1号機の建設工事を開始 |
| 1988年11月 2日 | 1号ボイラ 火入れ |
| 1988年11月 5日 | 石炭輸送船 第1船入港(11月1日 国際貿易港 開港) |
| 1989年 1月 9日 | 1号機の発電機が初並列 |
| 1989年 6月30日 | 1号機 営業運転開始 |
| 1989年10月31日 | 「1989年 国際環境保護賞 受賞」(米国出版社「マグロー・ヒル社」主催) |
| 1997年 7月 2日 | ISO14001認証取得(国内の電力業界初) |
| 1997年 9月12日 | 2号機 長崎県,松浦市及び佐賀県へ出力変更(80万kW→100万kW)の申し入れ |
| 1998年 1月~1999年 1月 | 2号機の出力変更に伴う環境影響調査を実施 |
| 1999年12月17日 | 2号機が「電源開発調整審議会」を通過 |
| 2001年 3月 7日 | 長崎県,松浦市及び佐賀県に2号機の建設を申し入れ |
| 2001年 4月 1日 | 2号機の建設所を設置 |
| 2001年 4月20日 | 2号機の建設工事を開始 |
| 2003年 6月21日 | 1号機が累積運転時間10万時間を達成(初並列以降) |

Ⅳ 展示施設の問い合わせ先

| 名称 | 住所 | 観覧時間 | 休館日 | 問い合わせ先(TEL) |
|-------------|----------------------------------|-----------|---|--------------|
| 九州エネルギー館 | 福岡市中央区薬院 四丁目13番55号 | AM9時~PM5時 | 毎週月曜日 (月曜日が祝祭日の場合は翌日) 年末年始(12/29~1/2) | 092-522-2333 |
| 玄海エネルギーパーク | 佐賀県東松浦郡 玄海町今村字浅湖 4112-1 | 〃 | 毎月第3日曜日 (第3日曜日が祝祭日の場合は翌日) 年末年始(12/29~1/3) | 0955-52-6409 |
| 川内原子力発電所展示館 | 鹿児島県川内市 久見崎町 | 〃 | 年末年始 (12/29~1/3) | 0996-27-3506 |
| 八丁原発電所展示館 | 大分県玖珠郡九重町 大字湯坪字八丁原 | 〃 | 〃 | 0973-79-2853 |
| 山川発電所展示室 | 鹿児島県指宿郡 山川町大字小川字 赤伏目2303番地 | 〃 | 〃 | 0993-35-3326 |

| 名称 | 住所 | 観覧時間 | 休館日 | 問い合わせ先(TEL) |
|---------------|------------------------------|------------|--|------------------------------|
| 野間岬ウインドパーク展示館 | 鹿児島県川辺郡 笠沙町字野間池 | AM9時~PM5時 | 年末年始 (12/29~1/3) | 0993-59-5522 |
| 天山発電所展示館 | 佐賀県東松浦郡 巖木町大字天川 | AM10時~PM4時 | 年末年始 (12/29~1/3) | 0955-65-2266 |
| 大平発電所展示室 | 熊本県八代郡 坂本村大字船場 1196番地2 | AM9時~PM4時 | 年末年始 (12/29~1/3)及び 定期修理期間(不定) | 0965-45-2761 |
| 一ツ瀬発電所資料館 | 宮崎県西都市大字 中尾字的場509-12 | AM9時~PM5時 | 毎週月曜日 (祝日の場合は開館) 及び年末年始(12/29~1/3) | 0985-24-2131 (宮崎支店広報グループ) |

駐車場あり いずれの施設も団体でお越しの際は、事前にご連絡下さい。



〒859-4596 長崎県松浦市志佐町白浜免字開発2091番地1
TEL(0956)72-1241 FAX(0956)72-3452

発行年月:2003年9月

九州電力ホームページ <http://www.kyuden.co.jp/>

本レポートについてのご意見,お問い合わせ,
発電所施設(グラウンド,テニスコート)のご利用申込みは,
九州電力(株) 松浦発電所 総務課までお願いします。



このレポートは、地球にやさしい大豆インクと再生紙を使用しています。

